



C コマンド

この章では、C で始まる Cisco NX-OS ファイバ チャンネル、仮想ファイバ チャンネル、および Fibre Channel over Ethernet (FCoE) のコマンドについて説明します。

cfs distribute

スイッチの Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルまたはディセーブルにするには、**cfs distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cfs distribute

no cfs distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

CFS 配信はイネーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、CFS は配信モードです。また、配信モードでは、ファブリック全体の配信がイネーブルです。アプリケーションは、自身のファブリック内の CFS に対応したすべてのスイッチに設定データを配信できます。この設定が操作の通常モードです。

no cfs distribute コマンドを入力して CFS 配信をディセーブルにした場合、次のイベントが発生します。

- CFS コマンドが引き続き動作します。ただし、スイッチの CFS および CFS を使用するアプリケーションは、物理的な接続があったとしても残りのファブリックから隔離されます。
- すべての CFS の操作は隔離されたスイッチに制限されます。
- 他のスイッチで実行された CFS の操作（たとえば、ロック、確定、廃棄）は、隔離されたスイッチにはまったく反映されません。
- ファイバ チャネルおよび IP の両方を介した CFS 配信がディセーブルになります。

例

次に、CFS 配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no cfs distribute
```

次に、CFS 配信を再度イネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv4 distribute

この機能を使用するアプリケーション向けに Internet Protocol Version 4 (IPv4; インターネットプロトコルバージョン 4) を介した Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、**cfs ipv4** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cfs ipv4 distribute

no cfs ipv4 distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

CFS 配信はイネーブルです。CFS over IP はディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

同様のマルチキャスト アドレスを持つすべての CFS over IP 対応スイッチにより、1 つの CFS over IP ファブリックが構成されます。ネットワーク トポロジ変更を検出するためのキープアライブ メカニズムのような CFS プロトコル特有の配信は、IP マルチキャスト アドレスを使用して情報を送受信します。

このコマンドを使用する場合は、次の注意事項に従ってください。

- IP およびファイバ チャンネルの両方を介してスイッチに到達可能である場合、アプリケーション データはファイバ チャンネルを介して配信されます。
- IP を介した CFS がイネーブルになっている場合は IPv4 配信または IPv6 配信のどちらかを選択できます。
- 同じスイッチ上で IPv6 配信および IPv4 配信の両方をイネーブルにすることはできません。
- IPv4 配信がイネーブルになっているスイッチは、IPv6 配信がイネーブルになっているスイッチを検知できません。これらのスイッチは互いに接続していても、2 つの別々のファブリックに存在するかのよう動作します。

例

次に、CFS IPv4 配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no cfs ipv4 distribute
This will prevent CFS from distributing over IPv4 network.
Are you sure? (y/n) [n]
```

次に、CFS IPv4 配信を再度イネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs ipv4 distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
cfs ipv4 mcast-address	IPv4 を介した CFS 配信の IPv4 マルチキャスト アドレスを設定します。
show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv4 mcast-address

IPv4 を介した Cisco Fabric Services (CFS) 配信の IPv4 マルチキャスト アドレスを設定するには、**cfs ipv4 mcast-address** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
cfs ipv4 mcast-address ipv4-address
```

```
no cfs ipv4 mcast-address ipv4-address
```

構文の説明

<i>ipv4-address</i>	IPv4 を介した CFS 配信の IPv4 マルチキャスト アドレスを設定します。有効な IPv4 アドレスの範囲は 239.255.0.0 ~ 239.255.255.255 および 239.192.0.0 ~ 239.251.251.251 です。
---------------------	---

コマンド デフォルト

マルチキャスト アドレス : 239.255.70.83

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**cfs ipv4 distribute** コマンドを使用して IPv4 を介した CFS 配信をイネーブルにします。

類似のマルチキャスト アドレスを持つ IP を介した CFS 対応スイッチのすべては、IP を介した 1 つの CFS ファブリックを形成します。ネットワーク トポロジ変更を検出するためのキープアライブ メカニズムのような CFS プロトコル特有の配信は、IP マルチキャスト アドレスを使用して情報を送受信します。

アプリケーション データの CFS 配信はダイレクト ユニキャストを使用します。

CFS over IP マルチキャスト アドレスの値を設定できます。デフォルトの IPv4 マルチキャスト アドレスは 239.255.70.83 です。

例

次に、IPv4 を介した CFS の IP マルチキャスト アドレスを設定する例を示します。

```
switch(config)# cfs ipv4 mcast-address 239.255.1.1
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure? (y/n) [n] y
```

次に、IPv4 を介した CFS 配信のデフォルト IPv4 マルチキャスト アドレスに戻す例を示します。

```
switch(config)# no cfs ipv4 mcast-address 10.1.10.100
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure? (y/n) [n] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
cfs ipv4 distribute	IPv4 を介した CFS 配信をイネーブルまたはディセーブルにします。
show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv6 distribute

Cisco Fabric Services (CFS) を使用するアプリケーション向けに IPv6 を介した CFS 配信をイネーブルにするには、**cfs ipv6 distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cfs ipv6 distribute

no cfs ipv6 distribute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

CFS 配信はイネーブルです。CFS over IPv4 はディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

類似のマルチキャスト アドレスを持つ IP を介した CFS 対応スイッチのすべては、IP を介した 1 つの CFS ファブリックを形成します。ネットワーク トポロジ変更を検出するためのキープアライブ メカニズムのような CFS プロトコル特有の配信は、IP マルチキャスト アドレスを使用して情報を送受信します。

このコマンドを使用する場合は、次の注意事項に従ってください。

- IP およびファイバ チャンネルの両方を介してスイッチに到達可能である場合、アプリケーション データはファイバ チャンネルを介して配信されます。
- IP を介した CFS がイネーブルになっている場合は IPv4 配信または IPv6 配信のどちらかを選択できます。
- 同じスイッチ上で IPv6 配信および IPv4 配信の両方をイネーブルにすることはできません。
- IPv4 配信がイネーブルになっているスイッチは、IPv6 配信がイネーブルになっているスイッチを検知できません。これらのスイッチは互いに接続していても、2 つの別々のファブリックに存在するかのよう動作します。

例

次に、CFS IPv6 配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no cfs ipv6 distribute
This will prevent CFS from distributing over IPv6 network.
Are you sure? (y/n) [n]
```

次に、CFS IPv6 配信を再度イネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs ipv6 distribute
```

関連コマンド

コマンド	説明
cfs ipv6 mcast-address	IPv6 を介した CFS 配信の IPv6 マルチキャスト アドレスを設定します。
show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv6 mcast-address

IPv6 を介した Cisco Fabric Services (CFS) 配信の IPv6 マルチキャスト アドレスを設定するには、**cfs ipv6 mcast-address** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
cfs ipv6 mcast-address ipv6-address
```

```
no cfs ipv6 mcast-address ipv6-address
```

構文の説明

<i>ipv6-address</i>	IPv6 マルチキャスト アドレスまたは IPv6 を介した CFS 配信を設定します。IPv6 管理スコープ範囲は [ff15::/16, ff18::/16] です。
---------------------	---

コマンド デフォルト

マルチキャスト アドレス : ff15::efff:4653

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**cfs ipv6 distribute** コマンドを使用して IPv6 を介した CFS 配信をイネーブルにします。

類似のマルチキャスト アドレスを持つ IP を介した CFS 対応スイッチのすべては、IP を介した 1 つの CFS ファブリックを形成します。ネットワーク トポロジ変更を検出するためのキープアライブ メカニズムのような CFS プロトコル特有の配信は、IP マルチキャスト アドレスを使用して情報を送受信します。アプリケーション データの CFS 配信はダイレクト ユニキャストを使用します。

IPv6 の CFS over IP マルチキャスト アドレスの値を設定できます。デフォルトの IPv6 マルチキャスト アドレスは ff15::efff:4653 です。IPv6 管理スコープ範囲の例は、ff15::0000:0000 から ff15::ffff:ffff または ff18::0000:0000 から ff18::ffff:ffff です。

例

次に、IPv6 を介した CFS の IP マルチキャスト アドレスを設定する例を示します。

```
switch(config)# cfs ipv6 mcast-address ff13::e244:4754
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure? (y/n) [n] y
```

次に、IPv6 を介した CFS 配信のデフォルト IPv6 マルチキャスト アドレスに戻す例を示します

```
switch(config)# no cfs ipv6 mcast-address ff13::e244:4754
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure? (y/n) [n] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
cfs ipv6 distribute	IPv6 を介した CFS 配信をイネーブルまたはディセーブルにします。
show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs region

選択したスイッチに対して、アプリケーション配信の範囲を制限するような領域を作成するには、**cfs region** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
cfs region region-id
```

```
no cfs region region-id
```

構文の説明

<i>region-id</i>	領域 ID を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。合計 200 の領域がサポートされます。
------------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトの領域 ID は 0 です。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

1 つのアプリケーションは、指定したスイッチ上の 1 つの領域にしか属することができません。領域 ID を作成してそれをアプリケーションに適用することで、アプリケーション配信は同様の ID を持つスイッチに制限されます。

Cisco Fabric Services (CFS) 領域により、アプリケーション スコープから孤立した配信領域を作成することができます。現在、領域は物理的なスコープ アプリケーションに対してだけサポートされます。領域の設定が行われていない場合、アプリケーションはデフォルト領域に属します。デフォルトの領域は領域 ID 0 です。

例

次に、領域 ID を作成する例を示します。

```
switch(config)# cfs region 1
```

次に、領域にアプリケーションを割り当てる例を示します。

```
switch(config)# cfs region 1  
switch(config-cfs-region)# ntp
```

次に、領域に割り当てられているアプリケーションを削除する例を示します。

```
switch(config)# cfs region 1  
switch(config-cfs-region)# no ntp
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cfs regions	全設定済みアプリケーションとピアを表示します。

cfs staggered-merge

Cisco Fabric Series (CFS) を使用して複数の Virtual SAN (VSAN) からのデータをマージするには、**cfs staggered-merge** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cfs staggered-merge enable

no cfs staggered-merge enable

構文の説明

enable	CFS staggered-merge オプションをイネーブルにします。
---------------	--------------------------------------

コマンド デフォルト

スタaggerド マージはディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、CFS スタaggerド マージをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs staggered-merge enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cfs status	スタaggerド マージがイネーブルになっているかどうかを表示します。

channel mode active (SAN ポート チャンネル)

アクティブ チャンネル ポートで SAN ポート チャンネルを設定するには、**channel mode active** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

channel mode active

no channel mode [active]

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

SAN ポート チャンネル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、SAN ポート チャンネル インターフェイス 3 をアクティブ チャンネルとして設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)# channel mode active
switch(config-if)#
```

次に、SAN ポート チャンネル インターフェイスをデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface san-port-channel 3
switch(config-if)# no channel mode
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。
switchport (SAN ポート チャンネル)	SAN ポート チャンネル インターフェイスのスイッチポート パラメータを設定します。
interface san-port-channel	SAN ポート チャンネル インターフェイスを設定します。

clear device-alias

デバイスエイリアス情報を消去するには、**clear device-alias** コマンドを使用します。

```
clear device-alias {database | session | statistics}
```

構文の説明

database	デバイスエイリアスデータベースを消去します。
session	セッション情報を消去します。
statistics	デバイスエイリアス統計情報を消去します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、デバイスエイリアスセッションをクリアする例を示します。

```
switch# clear device-alias session
```

関連コマンド

コマンド	説明
show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

clear fcdomain

設定済みホストのリスト全体を消去するには、**clear fcdomain** コマンドを使用します。

clear fcdomain session vsan vsan-id

構文の説明

session	セッション情報を消去します。
vsan vsan-id	1 ~ 4093 の範囲で指定された VSAN のファイバチャネルドメインを消去します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、設定されたホストのリストだけを消去します。既存の接続は切断されません。

例

次に、リモート キャプチャ用に設定されたホストのリスト全体をクリアする例を示します。

```
switch# clear fcdomain
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcdomain	リモート キャプチャ用に設定されたホストのリストを表示します。

clear fcflow stats

ファイバ チャネル フローの統計情報を消去するには、**clear fcflow stats** コマンドを使用します。

clear fcflow stats [**aggregated**] **index** *flow-index*

構文の説明		
	aggregated	(任意) ファイバ チャネル フローの集約統計情報を消去します。
	index	指定フロー インデックスのファイバ チャネル フロー カウンタを消去します。
	<i>flow-index</i>	フロー インデックス番号を指定します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、フロー インデックス 1 に対する集約ファイバ チャネル フロー統計情報をクリアする例を示します。

```
switch(config)# clear fcflow stats aggregated index 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcflow	fcflow 統計情報を表示します。

clear fcns statistics

ネーム サーバの統計情報を消去するには、**clear fcns statistics** コマンドを使用します。

clear fcns statistics vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	1 ~ 4093 の範囲で指定された VSAN の FCS 統計情報を消去します。				
コマンドデフォルト	なし					
コマンドモード	EXEC モード					
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>5.0(2)N1(1)</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。	
リリース	変更内容					
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。					
例	次に、ネーム サーバの統計情報をクリアする例を示します。 <pre>switch# clear fcns statistics vsan 1</pre>					
関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>show fcns statistics</td><td>ネーム サーバ統計情報を表示します。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	show fcns statistics	ネーム サーバ統計情報を表示します。	
コマンド	説明					
show fcns statistics	ネーム サーバ統計情報を表示します。					

clear fcsm log

Fibre Channel Signal Modeling (FCSM) ログをクリアするには、**clear fcsm log** コマンドを使用します。

clear fcsm log

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、FCSM ログをクリアする例を示します。

```
switch# clear fcsm log
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcs	ファブリック設定サーバ情報を表示します。

clear fcs statistics

ファブリック設定サーバ統計情報を消去するには、**clear fcs statistics** コマンドを使用します。

clear fcs statistics vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	1 ~ 4093 の範囲で指定された VSAN の FCS 統計情報を消去します。				
コマンドデフォルト	なし					
コマンドモード	EXEC モード					
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>5.0(2)N1(1)</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。	
リリース	変更内容					
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。					
例	次に、VSAN 10 のファブリック コンフィギュレーション サーバ統計情報をクリアする例を示します。 <pre>switch# clear fcs statistics vsan 10</pre>					
関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td>show fcs statistics</td><td>ファブリック設定サーバ統計情報を表示します。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	show fcs statistics	ファブリック設定サーバ統計情報を表示します。	
コマンド	説明					
show fcs statistics	ファブリック設定サーバ統計情報を表示します。					

clear fctimer session

fctimer Cisco Fabric Services (CFS) セッションのコンフィギュレーションおよびロックを消去するには、**clear fctimer session** コマンドを使用します。

clear fctimer session

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、fctimer セッションをクリアする例を示します。

```
switch# clear fctimer session
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fctimer	fctimer 情報を表示します。

clear fspf counters

Fabric Shortest Path First (FSPF) 統計情報を消去するには、**clear fspf counters** コマンドを使用します。

```
clear fspf counters vsan vsan-id [interface type]
```

構文の説明

vsan	VSAN でカウンタを消去します。
vsan-id	VSAN ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。
interface type	(任意) あるインターフェイスでカウンタをクリアすることを指定します。インターフェイス タイプは、fc (ファイバ チャンネル) と san-port-channel (SAN ポート チャンネル) です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスが指定されていない場合、VSAN のすべてのカウンタが消去されます。インターフェイスが指定されている場合、指定のインターフェイスのカウンタが消去されます。

例

次に、VSAN 1 の FSPF 統計情報をクリアする例を示します。

```
switch# clear fspf counters vsan 1
```

次に、指定のファイバ チャンネル インターフェイスの VSAN 1 の FSPF 統計情報をクリアする例を示します。

```
switch# clear fspf counters vsan 1 interface fc 3/2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf	特定の VSAN に対するグローバルな FSPF 統計情報を表示します。

clear fc-port-security

スイッチのポートセキュリティ情報をクリアするには、**clear fc-port-security** コマンドを使用します。

```
clear fc-port-security {database auto-learn {interface fc slot/port | san-port-channel port} |
  session | statistics} vsan vsan-id
```

構文の説明

database	ポートセキュリティのアクティブ コンフィギュレーション データベースを消去します。
auto-learn	指定のインターフェイスまたは VSAN の自動学習されたエントリを消去します。
interface fc slot/port	指定のファイバ チャネル インターフェイスの情報を消去します。
san-port-channel port	指定の SAN ポート チャネルのエントリを消去します。指定できる範囲は 1 ~ 128 です。
session	ポートセキュリティ Cisco Fabric Services (CFS) コンフィギュレーション セッションおよびロックを消去します。
statistics	ポートセキュリティ カウンタを消去します。
vsan vsan-id	指定の VSAN ID のエントリを消去します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

アクティブ データベースは読み取り専用です。**clear fc-port-security database** コマンドは、競合解決時に使用できます。

例

次に、指定の VSAN のポートセキュリティ データベースから既存の統計情報をすべてクリアする例を示します。

```
switch# clear fc-port-security statistics vsan 1
```

次に、VSAN 内の指定インターフェイスのアクティブ データベースから、学習エントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear fc-port-security database auto-learn interface fc2/1 vsan 1
```

次に、VSAN 全体のアクティブ データベースから、学習エントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear fc-port-security database auto-learn vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show fc-port-security</code>	設定されたポートセキュリティ情報を表示します。

clear rlr

Registered Link Incident Report (RLIR) 情報を消去するには、**clear rlr** コマンドを使用します。

```
clear rlr {history | recent {interface fc slot/port | portnumber port} | statistics vsan vsan-id}
```

構文の説明

history	RLIR のインシデント リンク履歴を消去します。
recent	最近のリンク インシデントをクリアします。
interface fc slot/port	指定インターフェイスのエントリをクリアします。
portnumber port	リンク インシデントのポート番号を表示します。
statistics	RLIR 統計情報を消去します。
vsan vsan-id	Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の RLIR 統計情報をクリアします。 VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 1 の RLIR 統計情報をクリアする例を示します。

```
switch# clear rlr statistics vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show rlr	RLIR 情報を表示します。

clear rscn session

指定の Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の Registered State Change Notification (RSCN) セッションをクリアするには、**clear rscn session** コマンドを使用します。

clear rscn session vsan vsan-id

構文の説明	vsan vsan-id	RSCN セッションを消去する VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
-------	---------------------	---

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	EXEC モード
---------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例 次に、VSAN 1 の RSCN セッションをクリアする例を示します。

```
switch# clear rscn session vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	rscn	RSCN を設定します。
	show rscn	RSCN 情報を表示します。

clear rscn statistics

指定の Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) の Registered State Change Notification 統計情報をクリアするには、**clear rscn statistics** コマンドを使用します。

clear rscn statistics vsan vsan-id

構文の説明

vsan	VSAN の RSCN 統計情報を消去します。
vsan-id	VSAN の ID は 1 ~ 4093 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

例

次に、VSAN 1 の RSCN 統計情報をクリアする例を示します。

```
switch# clear rscn statistics vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show rscn	RSCN 情報を表示します。

clear zone

指定の Virtual SAN (VSAN; 仮想 SAN) のゾーン サーバの設定情報をすべてクリアするには、**clear zone** コマンドを使用します。

```
clear zone {database | lock | statistics} vsan vsan-id
```

構文の説明

database	ゾーン サーバ データベース情報を消去します。
lock	ゾーン サーバ データベース ロックを消去します。
statistics	ゾーン サーバ統計を消去します。
vsan	VSAN のゾーン情報を消去します。
<i>vsan-id</i>	VSAN の ID を指定します。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(2)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

clear zone database コマンドを入力した後に、明示的に **copy running-config startup-config** コマンドを入力して、次にスイッチを起動するときに確実に実行コンフィギュレーションが使用されるようにする必要があります。

リモート スイッチから **clear zone lock** コマンドを入力した場合は、そのリモート スイッチのロックだけが消去されます。ロックを行ったスイッチから **clear zone lock** コマンドを入力すると、その VSAN 内のすべてのロックが消去されます。ロックを行ったスイッチのセッション ロックを消去する方法として、**no zone commit vsan** コマンドを使用することを推奨します。

例

次に、VSAN 1 ゾーン サーバ内の設定情報をすべてクリアする例を示します。

```
switch# clear zone database vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show zone	設定されたインターフェイスのゾーン情報を表示します。

■ clear zone